

明治家 実業列伝 ⑪

富田 鉄之助(上)

仙台市博物館 市史編さん室長 菅野正道



日本銀行設立の立役者

明治十五(一八八二)年十月、ちょうど今から二一〇年前、日本唯一の「中央銀行」である日本銀行(日銀)が設立されました。紙幣の発行、「銀行の銀行」、政府への資金融資、金融政策の運営を主な業務とする中央銀行の設立は、資本主義経済には不可欠なものでした。日銀の設立によって、日本経済はやっとな近代資本主義の仲間入りをすることができた、と言っても過言ではありません。

この新設早々の日銀を切り盛りしたのが、仙台藩出身の富田鉄之助でした。この時、日銀のトップである総裁には、大蔵少輔(大蔵次官)であった薩摩出身の吉原重俊(大蔵次官)でしたが、病気がちであり、副総裁の富田鉄之助が事実上、日銀の総裁的な立場にあったのです。日銀が設立後におし進めた、日本銀行券の発行開始や金融政策の基幹づくり、近代的な手形・小切手取り引きの普及といった施策



富田鉄之助は仙台北下の良寛院丁(現在の仙台高等裁判所向かい付近)にあった富田家の仙台北屋敷で生まれた。写真は、幕末の仙台を描いた屏風絵(仙台市博物館所蔵)に見える良寛院丁付近。

のほとんどは、富田副総裁が主導したものでした。

明治二十年十二月に吉原が病没すると、翌年二月、鉄之助は日銀の第二代総裁に就任しました。名実ともに日銀のトップの座に就いたのですが、大蔵卿(大臣) 松方正義と経済政策をめぐって対立し、節を曲げることを潔しとしなかった鉄之助は、明治二十二年九月に辞任したのです。在位わずかに一年半でした。

仙台藩の俊秀

富田鉄之助は、天保六(一八三五)年、仙台北下で生まれました。生家は二千石の禄を有する重臣の家柄で、父・実保は藩の奉行(家老)職にも就いています。

幼い頃から頑健な体力と明晰さをあらわした鉄之助は、四男だったため跡取りではありませんでしたが、儒学に加えて、剣術、居合術、弓術、槍術、馬術と、文武ともに一流の師について学ぶ機会を与えられました。さらに二十二歳の時には、西洋砲術を学ぶことを藩から命じられ、江戸へ赴き、同時に蘭学も学んでいます。いかに鉄之助が将来を嘱望されたのかを知ることができます。

三年の修学後、いったん仙台に戻った鉄之助は、今度は海軍術と蒸気機関の習得を命じられ、幕臣・勝海舟の塾生になります。この頃の鉄之助は、藩命で京・大坂への出張を命じられることもあり、坂本龍馬をはじめ、さまざまな人物と幅広い交流をもったようです。

アメリカ留学

慶応三(一八六七)年、三三歳になった富田鉄之助は、アメリカに留学することになります。これは、海舟の子息・勝小鹿のアメリカ留学に同行するというものですが、鉄之助が勝小鹿の留学に同行することは、海舟じきじきの指名であったといい、また仙台藩は年間一千両の学費を鉄之助に支給することを決めています。鉄之助の才能に、海舟、仙台藩ともに大きな期待を寄せていたのです。

七月に日本を出発した鉄之助は、二ヵ月後にニューヨークに達し、ボストンで英語の習得に努めました。しかし、この時期、日本はまさに戊辰戦争の真っ最中で、急速に時代が動いていました。こうした情勢を知った鉄之助は、藩の危急に必ず、一時帰国を決意し、五ヶ月の旅路の後、明治元年(一八六八)十一月に横浜にたどり着きました。

しかし、鉄之助を待っていたのは「今回の留学は、人材育成を考えてのことであり、幕府や出身藩の浮沈を気にして学半ばで帰国するのは心得違い」という勝海舟の厳しい叱責でした。この海舟の言に目を覚ました鉄之助が、改めて留学の志を海舟に告げると、海舟は旅費や今後の学費の手配をして、再び鉄之助をアメリカに送り出したのです。

渡米した鉄之助は、勉学に励み、とくに経済や金融について知識を深めました。その精励ぶりをアメリカ公使森有礼に認められ、明治五年に岩倉使節団がアメリカを訪問した際、応接役として力量を発揮した鉄之助は、明治六年、ニューヨークの副領事に大抜擢されました。こうして鉄之助は、「朝敵」出身者ながら、その才能と努力によって、明治政府の官僚としての地位を築いたのです。(つづく)

仙台市史

好評発売中

通史編6 近代 1

明治時代の仙台 近代化とそのくらし

◆A5判 520頁 オールカラー ◆定価3000円(本体2858円)



芭蕉の辻にあった七十七銀行本店は、明治36(1903)年に建てられたドーム型の近代的な建築であった。その後、昭和16(1941)年には日本銀行の仙台支店となった。

お求め先 県内主要書店・仙台市博物館/櫛宮城県教科書供給所 TEL.022-235-7181 FAX.022-235-7183
お問い合わせ先 仙台市博物館市史編さん室 〒980-0862 仙台市青葉区川内 26 番地 TEL.022-225-3074